

8501 早朝かかってくる電話・・・

早朝かかってくる電話には碌なものがない。大抵は間違い電話だ。自分で間違えておきながらどうして違うんだよ、と突っ掛かってくる者もある。その言葉に圧倒されて思わず、すいませんとあやまってしまうこともある。そうして、首を傾けながら出勤することになる。

高橋三千綱『よろしく愛して』

[許容訳例]

Telephone calls in the early morning are most likely to be worthless; such calls are mostly misdialled. In some cases, the man that has got the wrong number actually snaps at me, saying “What’s wrong about it?” and his aggressiveness drives me into begging his pardon. As a result I start for the office quite unconvinced.

[翻訳例]

Early morning calls are an invariable waste of time. Most of them are wrong numbers. Some people, even, dial the wrong number then demand aggressively what’s wrong about it. Sometimes, intimated, I find myself meekly apologizing, with the result that I leave for the office with a lingering sense of grievance.

■早朝かかってくる電話には碌なものがない。(8501)

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(早朝かかってくる電話)

「早朝かかってくる電話」は、一応「連体修飾節(早朝かかってくる)＋不定代名詞的体言(電話)」ですから、「名詞(telephone calls)＋関係詞節((which) I get in the early morning)」も可能ですが、Telephone calls in the early morning で十分に通じます。あるいは Early morning calls だけでもいいです。なお、早朝にかかってくる電話一般を述べているので無冠詞複数です。

★「碌なものがない」は are most likely to be worthless で十分感じがですが、are an invariable waste of time と書くことも出来ます。invariable は「必ず；例外なく」という意味ですが、全部が全部という断定した感じとはちょっと違います。この invariable waste of time という表現は一つの決まり文句のようなもので、たとえば、You shouldn’t go to that kind of meeting. It’s an invariable waste of time.のように使います。「どうせいいことはないに決まっているんだから」という意味合いになります。

■大抵は間違い電話だ。(8501)

★「大抵は」は「その大抵の電話」のこと。Such calls are mostly…とか Most of them are…です。

★「間違い電話だ」は、一般論ですから無冠詞複数で are wrong numbers です。1965 年以降には「間違い電話をする」に misdial が使われていますから are mostly misdial(l)ed と

言うことができます、普通「間違い電話」は a wrong number です。

■自分で間違えておきながらどうして違うんだよ、と突っ掛かってくる者もいる。(8501)

★「自分で間違えておきながら」は「自分で間違い電話をしたくせに」とか「自分で間違い電話をした当人が」(連体修飾節+特定名詞)と言い換えることができます。したがって、「特定名詞(The (very) man)+関係詞節(that has got the wrong number)」と処理することができます。あるいは very の代わりに actually (まさかと思うかもしれないが実は・・・)を使って the man that has got the wrong number actually とすることも出来ます。「自分で間違っておきながら、よくもまあそんなことを」「まさかやれるはずのないことをやってのける」という感じです。たとえば、Not only did he eat my food without saying thank you, but he actually asked me to lend him some money.のように、つまり、こんなことを言うと信じられないかもしれないが、本当にあったことなんだ、という感じで使います。

●「(・・・して) おき [ながら]」

「自分で間違えておきながら・・・」は連体修飾節に還元しなくても、they (even) do..., then...でも表すことができます。つまり Some people, even, dialed the wrong number then...となります。なお、even は強調する語句の直前に置きます。

★「どうして違うんだよ、と・・・」は、「[「どうして違うんだよ」と(言って)・・・]と引用符に入るべき直接話法の文ですから he says, "What's wrong about it?"です。つまり、wrong number だと言われて、wrong という言葉が自分に向けられたかのような感じで、バツが悪いものだから「何が wrong なんだ!」という感じです。この場合、"Why is it wrong?"とは言えません。まったく logical ではないのですが、こういう場合 why は使えないのです。

★「突っ掛かってくる」は snap at me です。snap は「(鋭く・きつく・ぴしゃっと・がみがみ・かみつくように)言う」という意味で、通常非常に短い文の伝達動詞としても使うことができます。たとえば、"No!" he snapped.とか、"Get out!" he snapped.のように。ですから he says, "...の代わりに he snaps, "What's wrong about it?"とも使えます。あるいは、demand (言えと迫る・詰問する)も伝達動詞として he demands, "What's wrong about it?"/ he demands what's wrong about it.のように使うことができます。

★「・・・もいる」は in some cases でも表すことが出来るし、「・・・者もいる」と続けて some people...も可能です。

◆「話法」(直接話法→間接話法+副詞)

この日本語は「自分で間違えておきながら」という筆者の地の文の中に、引用符もなく間違い電話をした当人のセリフ「どうして違うんだよ」が挿入されています。日本語では、このように、印象的に伝えようとする場合、それが短いセンテンスでも、多少長い文でも直接話法の文(セリフ)をそのまま入れます。それによって生き生きした感じが出るのですが、英語にはそういう使い方はありません。その代わり、英語では様々な副詞を併用することによってその臨場感を表現します。たとえば、貧乏な家の子供が、お金持ちの家の子供が何かのおもちゃをもって遊んでいるのをみて「いいねえ」とか「いいなあ」と言ったとします。

その言葉をそのまま“How nice!”と英訳しただけでは、日本語の持っているニュアンス（うらやましさ）が全然出ません。こういう場合には “Look,” he said wistfully. という言い方に変えます。つまり、この wistfully という副詞を加えることによって羨ましそうにあこがれを込めて見つめている子供の気持ちを出すわけです。したがって、「どうして違うんだよ、と突っ掛かってくる」は「・・・と言って突っ掛かってくる」と解釈すると、「主動詞(snapped at me)＋句(saying, “…?”)」と直接話法で処理することも出来ますが、英語らしく間接話法で処理すると aggressively という副詞を加えて they demand (to know) aggressively what’s wrong about it となります。aggressively には「攻撃的に；侵略的に」などかなり堅い訳語が辞書には出ていますが、aggressive という言葉は、日常会話にも、たとえば、in an aggressive tone of voice (つかかかのような口調で) とか、あるいは There’s no need to be so aggressive. (そうカリカリしなさんな) のように使います。ここでは「どうして違うんだよ」という語勢を aggressively で表わしているわけです。

■その言葉に圧倒されて思わず、すいませんとあやまってしまうこともある。(8501)

★「その言葉に圧倒されて・・・」は、直訳すると(I am) overwhelmed by his words, and… ですが、by his words はわざわざ訳す必要はありません。それから overwhelmed はこなれていないような気がするので intimidated にするといいと思います。この言葉は辞書では「脅かす」となっていますが、この種の単語は日常会話で使う場合、英和辞典に載っている日本語の意味よりも必ずと言っていいくらい柔らかい表現になります。ですからこの intimidated も「脅されて」という強い調子ではなく、単に「気圧されて；圧倒されて」といったニュアンスになります。

●文技巧（受動態の文を能動態で）

日本語では動作主を明らかにしないで受動態にすることが多いのですが、英語では受動態は一種の特殊な場合に使うという習慣があります。出来るだけ能動態で書くことが求められるのです。したがって、「その言葉に圧倒されて・・・」は、直訳すると(I am) overwhelmed by his words, and…で、これでもいいのですが、「その言葉に圧倒されて・・・」は his words あるいは his aggressiveness を主語にして His words drive [His aggressiveness drives] me into…にするという姿勢は英語的でいいと思われます。

★「思わず」は、辞書には unconsciously とか in spite of oneself が出ていますが、unconsciously は without realizing what I am doing ということ、つまり、「習慣になっているので、無意識に」という意味で、ここでは使えません。in spite of oneself という表現は、たとえば、何か品の悪い話を聞かされて、「そういう類いの下品な話には耳を貸さない」と決めているような場合に、It was [went] against my principles, but I laughed in spite of myself. (思わず笑ってしまった) のように使います。ここでは無理のようです。この場面で一番近い表現は find myself doing something だと思います。つまり、「気がつかないうちに・・・している（自分を見いだす）・気がついたら・・・していた」ということです。

◆「話法」（直接話法→間接話法＋副詞）（すいませんとあやまってしまう）

「すいませんとあやまってしまう」は、引用符を加えると「「すいません」と（言って）あやまってしまう」です。「あやまる」は apologize; beg one's pardon で、「・・・と（言って）・・・する」ですから、直接話法を使うと「主動詞(apologize)+句(saying, “(I’m)sorry.”)」ですが、地の文に直世話を混ぜるのは英語としては自然でないで、「間接話法+副詞」で、たとえば、meekly apologize とします。meekly というのは「ひたすらおとなしく；従順に」という意味ですが、日常で使うとかなりユーモラスなニュアンスを込めることになります。

★「こともある」は、上の「・・・者もいる」(Some people…)と同様に Sometimes…と先頭に置きます。

■そして、首を傾けながら出勤することになる。(8501)

★「そして」は as a result でもいいですが、result の内容はすでに了解されているので with the result that…とすることも可能です。

★「首を傾けながら」は、直訳(with one's head tilted to one side)しても、日本人をよく知らない人には、首を傾げるという動作が「何か腑に落ちないけれども何も言ったりしないで」という意味であることはわかりません。したがって、「首を傾げる」という動作を訳す必要はないわけで、その時の心理状態をうまく表現すればいいと思います。簡単には quite unconvinced ですが、「何かしっくりしない・ぐずぐず後を引く」という意味の linger を利用して with a lingering sense of grievance とすると「首を傾けながら」の心理状態を表すことが出来ると思います。a sense of grievance は「不満の気持ち・被害者意識」ということで、何となく腑に落ちないという感情を表しています。この a lingering sense of grievance という表現は、ちょっとくどいように思えるかもしれませんが、ここの心理状態を表すのにはぴったりのように思われます。つまり、翻訳する場合、不可欠なことは、日本語の字面にとらわれず、まず前後のコンテキストから、筆者の言わんとするところを斟酌するということだと思います。

★「出勤することになる」は I leave[start] for the office です。